

[5] 都城地区小体連 (学校数42校 児童数11,152人)

## I 研究部のあゆみ

### 1 研究主題・副題

**生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための  
資質・能力の基礎を育む体育科学習  
～共生の視点に立った指導内容の充実の工夫を通して～**

### 2 主題設定の理由

宮崎県小学校体育連盟では、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習 ～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～」の研究課題のもと、今年度まで研究に取り組んでいる。その中で、「共生の視点に立った指導内容の充実」について、研究を行っている。

本市では、児童の運動・体力の状況について、昨年度、各校体育主任に調査を実施した。その中で、「運動に積極的に関わらない児童への指導」や「苦手な児童と得意な児童の技能差」について多くの課題が挙げられた。それを受け、本市でも、県小学校体育連盟の研究に即し、「共生の視点」についての研究を行うこととした。

○ 本研究における「共生の視点」について。

- ・ 運動の得意不得意に関係なく、「自分たちでつくる」感覚を味わえる授業づくり。
- ・ チームでの協力、目標設定、振り返りなどを通して、「楽しさ」「つながり」を実感できる体育授業。

### 3 研究仮説

「共生の視点」に立った授業改善や研究を通して、指導内容の充実を図ることで、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育むことができるだろう。

### 4 研究の内容

○ アイデア集(ルール集)について

特に、本年度は「運動能力の差をうめるルールの工夫」に焦点を当て、実践的な工夫を広く共有できるように、ルールアイデア集の作成に取り組む。

#### ★ 収集内容 (アンケート形式)

各校の体育主任を通じて、以下のような観点からアイデアを募集する。

##### 【単元】

対象：ゲーム型運動（ボール運動）の授業実践

〈例・・・サッカー・バスケットボール・ハンドボール・フラッグフットボール・タグラグビー等〉

##### 【ルールの観点】

「人数・コート・プレーの制限・得点の仕方・道具・その他」の5つの視点から選んで、先生方が取り組んでいるルールを教えてください。

○ 体力向上の取組集について

各学校の体力向上に関する実践を共有するため、授業内・授業外の取組を集約する。

★ 集約内容

以下の観点に基づき、取組内容・工夫・成果等を簡潔に記入する。

① 授業内の工夫

例：運動量を確保するためのサーキット形式、児童の主体性を高める声かけ、記録への挑戦活動など

② 授業外の工夫

例：なわとびチャレンジ週間、全校遊びの導入、業間運動、家庭との連携を促す通信発行など

○ 研究授業について

今年度は、地区小体連・中体連・高体連合同研究会の授業発表を、小体連が担当した。

実施校	都城市立五十市小学校（竹下 佳汰 先生）
学年・単元	5年生／ゴール型ゲーム（バスケットボール）
授業日	12月3日（水）

II まとめ

研究部では、令和7年度から令和8年度まで、共生の視点に立った授業研究を行っていく。アイデア集の作成を行い、地区内の先生方に共有することで、体育科学習の更なる充実に資するようになりたい。

事業部では、市内6年生全児童を集めて、陸上運動教室を実施した。令和5年度に実施した反省をもとに、さらに充実した大会を目指して準備を行ってきた。また、今年度は、2027宮崎国スポ・障スポのプロモーションビデオ撮影を兼ねた大会であったため、例年より実施競技を減らしての実施となった。次年度も、これまでの反省を生かしながら、さらに有意義な大会となるようにしたい。